

持続可能な文化財の保存と活用のための方策について（第二次答申）【概要】

1. 検討の背景

- 文化財の修理技術者等や、用具・原材料の確保・支援等を持続的に進めるための5か年計画として「文化財の匠プロジェクト」を策定（令和3年12月24日文部科学大臣決定）
- 同プロジェクトの更なる対応策及び平成29年諮問の継続審議事項の検討が必要
文部科学大臣からの審議要請（令和3年8月23日）における調査事項
 - （1）文化財の保存技術や技能の継承、修理技術者等の確保及び支援の在り方
 - （2）文化財の保存に必要な用具や原材料等の安定的な確保の方策
 - （3）持続可能な文化財保存の在り方など制度的対応（保存と活用の循環、資金調達の促進）

2. 課題及び検討の方向性

（1）文化財の保存技術や技能の継承、修理技術者等の確保及び支援について

主な課題

- ・技術者が減少し、後継者養成を限られた現役技術者が担うなど負担が大きい
- ・市場規模が小さく、家業として零細に営まれている場合が多いなど、事務機能が脆弱
- ・修理が生業として成り立つことが重要。高度な仕事への適正な対価という理解が必要
- ・文化財を護り支えてきた重要性に比して認知度が低い

検討の方向性

- 選定保存技術について、複数認定を積極的に行う方針を明確化し認定を更に拡大するとともに、広く認識され親しみのある通称を付し社会的認知の向上を図る
- 技術者が後継者養成や技術錬磨に注力できるよう、管理業務のサポート体制を整備
- 匠の技を伝える真正な用具・原材料の確保を支援するなど伝承者養成支援を更に強化
- 中堅・若手の修理技術者等のモチベーションとなるような表彰制度を創設
- 文化財保存技術の分野横断的な拠点、情報収集、調査研究、研修等の機能を有するナショナルセンターとしての文化財修理センター（仮称）の設置に向けた検討

（2）文化財の保存に必要な用具や原材料等の安定的な確保について

主な課題

- ・文化財修理等の多くは、多種・高品質で少量かつ特殊な用具・原材料が必要
- ・原材料の需要開拓など、継続的な生産を支える環境が不足

検討の方向性

- 文化財の保存に不可欠な原材料を国が順次リスト化・公表し、各原材料の現状や課題に係る調査研究を加速し、生産支援の充実などにより、安定供給を図る
- 文化財修理に必要な用具・原材料に関する需給調査、代替材料も含めた原材料の調査研究、調査で得られた知見の集約・情報発信を定期的・継続的に実施
- 文化財建造物の修理機会における需要創出（伝統的な和紙や畳の活用等）

（3）持続可能な文化財保存のための対応について

主な課題

- ・文化財の修理は、適正な周期で行われることが必要
- ・寄附金を含めて資金工面が困難な所有者が多く、公的機関のサポートが必要

検討の方向性

- 多様な文化財について、長期的な修理需要予測調査を実施。中長期的な見通しのある修理技術者等の仕事量確保にも貢献
- 国・地方公共団体で文化財保存に必要な予算を確保した上で、文化財の保存・活用を目的とした多様な資金調達を活用

- 「文化財の匠プロジェクト」と連動し、関係省庁等と連携し必要な措置を講じる。